



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
9/29 (月)	+ 300	▲ 3,600	▲ 3,000		CP等買入 ▲100 国債補充供給 1,000		日：日銀の野口旭審議議員が札幌商工会議所で講演
9/30 (火)	▲ 300	▲ 6,800	▲ 7,100				日：金融政策決定会合における主な意見 (9月18日、19日分) 米：住宅着工件数 (8月)
10/1 (水)	+ 1,000	▲ 17,000	▲ 16,000	国債発行償還 (2年)	共通担保資金供給 ▲ 8,000		日：日銀短観 (9月調査) 米：ISM製造業景況指数 (9月) 欧：ユーロ圏CPI (9月)
10/2 (木)	トン	▲ 52,000	▲ 52,000	法人税・消費税・保険揚げ			日：内田副総裁が全国証券大会であいさつ 米：新規失業保険申請件数 (9月27日終了週)
10/3 (金)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000	国債発行償還 (2年)			日：植田総裁が大阪経済4団体共催懇談会で講演 ：失業率・有効求人倍率 (8月) 米：雇用統計 (9月) ：ISM非製造業総合景況指数 (9月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国債大量償還等の要因により前営業日対比5兆3,300億円増加し、503兆8,900億円から始まった。その後、国債発行等の要因により増減し、9月26日は503兆9,400億円 (速報) で越週した。無担保コールON物加重平均金利は週初、0.476%から始まり、その後も横ばい圏で推移した。ターム物は1W~3W物0.455%~0.61%のレンジ、1M~3M物0.58%~0.70%のレンジで出合が見られた。来週の予定は、国内では、9月30日に金融政策決定会合における主な意見 (9月18・19日分)、10月1日に日銀短観 (9月調査) の公表、3日に植田総裁の講演、海外では3日に米雇用統計 (9月) の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.450 ~ 0.478
1M	0.525 ~ 0.60
2M	0.54 ~ 0.65
3M	0.58 ~ 0.70
6M	0.65 ~ 0.85

<レポ>

足許GCは週を通して+0.49%~+0.495%の狭いレンジで取引された。買入れオペのあった24日や、短国の発行があった26日の取引も水準に変化は見られなかった。SC取引は2年470~475回債、5年155~179回債、10年355~371、378~379回債、20年110~130回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.40%台
CP 3M	0.55 ~ 0.65

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆2,160億円で、週間償還額の4兆1,590億円を下回った。期末の有利子負債圧縮の姿勢から大幅な償還超となった。発行残高は、先週末時点の2兆5,506億円から、9月25日時点で2兆5,513億円へとわずかに増加した。発行市場では、不動産業・建設業・機械業・卸売業をはじめとする幅広い業種で大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.50%台、3か月物で0.60%台を中心に、幅広い水準での取引が確認された。来週の償還額は2,930億円となっている。発行市場は、期明けに伴う資金調達再開の動きから、相応の発行が見込まれる。発行レートについては、政策金利の引き上げに対する警戒感があり、引き続き水準を見極める展開が予想される。

<TDB>

26日の3M (1334回債) の入札は、最高落札利回り0.4915% (前回債0.4718%)、平均落札利回り0.4582% (前回債0.4569%) となった。来週の入札は10月3日に3Mが予定されている。